

科目名	眼筋機能回復学講義			分野・必選別・単位数	専門科目	選択	2単位
担当教員	◎教授 林 孝雄					科目ナンバー	T1C107
課程	博士前期	配当年次	1年	配当学期	通年	授業方法	講義
授業の概要	種々な眼筋機能異常に対する治療法を修得できる。						
授業の到達目標	<p>① 眼筋機能異常の回復には、プリズム療法、ボツリヌス治療、視能矯正および手術がある。視能矯正は有効性が論じられるが、手術で治療する場合の評価、ボツリヌス治療が麻痺性斜視に有効とされるものの自然治癒との相違といった非観血的治療の疑義を説明できる。</p> <p>② 麻痺性斜視の手術では手術時期と、筋強化手術と筋移動術の適応を説明できる。</p> <p>③ 眼筋機能異常による水平斜視・上下斜視・回旋斜視の治療法とその適応を説明できる。</p>						
授業計画	回数	担当者		行動目標			
	1	林 孝雄	教授	眼筋機能異常回復の把握 眼筋機能異常を回復させる方法とその機構を説明できる。			
	2	林 孝雄	教授	眼筋機能異常回復の把握 眼筋機能異常を回復させる方法とその機構を説明できる。			
	3	林 孝雄	教授	眼筋機能異常回復の把握 眼筋機能異常を回復させる方法とその機構を説明できる。			
	4	林 孝雄	教授	眼筋機能異常回復の把握 眼筋機能異常を回復させる方法とその機構を説明できる。			
	5	林 孝雄	教授	眼筋機能異常回復の把握 眼筋機能異常を回復させる方法とその機構を説明できる。			
	6	林 孝雄	教授	眼筋機能異常回復の把握 眼筋機能異常を回復させる方法とその機構を説明できる。			
	7	林 孝雄	教授	眼筋機能異常回復の把握 眼筋機能異常を回復させる方法とその機構を説明できる。			
	8	林 孝雄	教授	麻痺性斜視の治療 水平斜視・上下斜視・回旋斜視の治療法とその適応を吟味し、麻痺性斜視の手術時期と、筋強化手術と筋移動術の適応を説明できる。			
	9	林 孝雄	教授	麻痺性斜視の治療 水平斜視・上下斜視・回旋斜視の治療法とその適応を吟味し、麻痺性斜視の手術時期と、筋強化手術と筋移動術の適応を説明できる。			
	10	林 孝雄	教授	麻痺性斜視の治療 水平斜視・上下斜視・回旋斜視の治療法とその適応を吟味し、麻痺性斜視の手術時期と、筋強化手術と筋移動術の適応を説明できる。			
	11	林 孝雄	教授	麻痺性斜視の治療 水平斜視・上下斜視・回旋斜視の治療法とその適応を吟味し、麻痺性斜視の手術時期と、筋強化手術と筋移動術の適応を説明できる。			
	12	林 孝雄	教授	麻痺性斜視の治療 水平斜視・上下斜視・回旋斜視の治療法とその適応を吟味し、麻痺性斜視の手術時期と、筋強化手術と筋移動術の適応を説明できる。			
	13	林 孝雄	教授	麻痺性斜視の治療 水平斜視・上下斜視・回旋斜視の治療法とその適応を吟味し、麻痺性斜視の手術時期と、筋強化手術と筋移動術の適応を説明できる。			
	14	林 孝雄	教授	麻痺性斜視の治療 水平斜視・上下斜視・回旋斜視の治療法とその適応を吟味し、麻痺性斜視の手術時期と、筋強化手術と筋移動術の適応を説明できる。			
15	林 孝雄	教授	麻痺性斜視の治療 水平斜視・上下斜視・回旋斜視の治療法とその適応を吟味し、麻痺性斜視の手術時期と、筋強化手術と筋移動術の適応を説明できる。				
事前事後学修の内容およびそれに必要な時間	【事前学修】	指定したテキストの次回授業部分を事前に読んでおくこと。 次回の授業内容を予習し、用語の意味等を理解しておくこと。					
	【事後学修】	授業中の疑問点をまとめ、教科書等を利用し、次回授業までに解決しておくこと。					
	【必要時間】	当該期間に30時間以上の予復習が必要。					
教科書	丸尾敏夫、久保田伸枝 著:斜視と眼球運動異常、株式会社コームラ、2017年 丸尾敏夫 他 編:視能学 第2版、文光堂、2011年 大鹿哲郎 編:眼科プラクティス 6、眼科臨床に必要な解剖生理、文光堂、2005年 大鹿哲郎 編:眼科プラクティス 25、眼のバイオメトリー、文光堂、2009年 丸尾敏夫 編:眼科プラクティス 29、これでいいのだ斜視診療、文光堂、2009年						
参考書							
成績評価の方法および基準	レポート30%、口頭試問60%、授業内課題10% 欠席・遅刻・早退は減点の対象となる。						
その他履修上の注意事項	試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。 この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。 (ディプロマ・ポリシー2に相当する)						